



# 院内感染対策ニュース

平成29年11月22日 第51号  
院内感染対策委員会

## インフルエンザシーズン到来！ワクチン接種しましたか？

今年もこの季節がやってきましたね。皆さんはインフルエンザのワクチン接種は終わりましたか？北海道はすでに60名以上の発症者が出ています。釧路はほとんど発生していませんが、これからジワジワと増えてくるかもしれません。今回は流行期を迎えるインフルエンザを取り上げます。

### インフルエンザの特徴

インフルエンザウイルスによる感染症。  
冬から春にかけて流行。

感染経路は**飛沫感染**。

**38度以上の発熱、頭痛、関節痛、倦怠感が急速に出現。潜伏期間は1～2日。通常は1週間程度で治癒。**

治療は抗インフルエンザ薬（タミフル、リレンザ、イナビルなど



### 飛沫感染対策

インフルエンザの感染経路は飛沫感染。くしゃみや咳などに含まれるウイルスが口や鼻から入り感染します。2m以内であればしぶきが飛んで感染する危険があります。

### ワクチンについて

インフルエンザ流行期になると医療機関でワクチン接種を呼びかけます。インフルエンザワクチンは接種すると**インフルエンザに罹らないということではありません**。ワクチン接種によってインフルエンザにかかった時に重症化を抑えたり、症状が軽くすむといわれています。また、ワクチン接種後すぐに効果が現れるわけではありません。接種後2週間程度で効果が出ます。ワクチンの効果は約5ヶ月間といわれていますので、流行期の全てをカバーできるものではありません。**\*妊婦さんもワクチン投与は問題ないとされていますがかかりつけの産婦人科医の指示に従ってください。**



### インフルエンザの検査とお薬

インフルエンザは**発熱後12時間以上経過しないと検査で陽性にならない場合が多い**です。そのため、検査で陰性と出ても発熱後時間があまり経っていない場合、陽性にならないことがあります。できれば12時間以上経過した後に受診し検査することが望ましいです。検査は約30分程度で結果が出ます。インフルエンザと診断されたら抗インフルエンザ薬を服用します。内服だと1日2回5日間、吸入であれば1日1回のお薬もあります。ただし、発熱後48時間以上経過している場合は薬の適応はなくなります。



### しっかり予防

予防はワクチンだけでなく手洗い、うがい、マスクの着用が必須です。ウイルスが付着しているものに触れた後、手を介して感染することもあるといわれています。インフルエンザウイルスはアルコールの効果があるため手指消毒も有効です。人ごみ、病院、コンサート会場、空港などたくさんの方が集まる場所は感染のリスクが高まります。流行期にはマスクの着用をお勧めします。マスクも鼻から顎まで覆ってくださいね。

### 就業制限について

インフルエンザにかかった場合または検査で陰性の場合でも症状がありインフルエンザの疑いが強い場合は学校や仕事に行くことを医師の指示で制限する場合があります。インフルエンザは原則**発熱翌日から5日を経過かつ解熱後2日経過するまでは学校や仕事を休む**必要があります（当院職員はこれを適応）。これは感染拡大を防止するために必要なことですのでご理解の程よろしくをお願いします。

### 発熱外来のご案内

11月1日から発熱外来を開始しました。**発熱している方は総合案内へ申し出て下さい**。また、発熱や風邪症状がある方は**マスク着用**をお願いします。発熱している職員も受診すること。無理に出勤しないで下さい。症状がある場合は上司に報告して下さい。

**\*インフルエンザが病棟内で発生した場合、感染拡大防止のため個室に移動、または医師の判断で一旦退院し、改めて入院していただくことがあります。面会の方もマスク着用、手指消毒、必要時以外の面会は極力ご遠慮下さい。感染防止のためご協力をお願い致します。**

マスクは正しく着用しましょう！



顎や鼻が出ていると予防できないよ！話をする時こそ必ずマスクでブロックしてね。

